

# Global Classrooms

## グローバル・クラスルーム 報告書

全米高校模擬国連大会への日本代表団派遣



2007年6月  
グローバル・クラスルーム日本委員会  
Japan Committee for Global Classrooms

## 目次

1. はじめに	1
2. グローバル・クラスルームとは	2
3. 模擬国連委員会とは	3
4. 推薦の言葉	4
5. 企画概要	5
6. 派遣報告	6
7. 参加者報告	9
8. 支援団体一覧	24
9. 会計報告	24
10. グローバル・スポンサー メリルリンチ社	25
11. グローバル・クラスルーム日本委員会	25
12. おわりに	26
13. 参考	26



## はじめに

この度、全米高校模擬国連大会への日本代表団派遣事業の報告書を皆様にお届けできる運びとなりました。2007年5月14日から20日にかけての派遣いたしました本事業は、多くの皆様に支えられ、無事帰国の途に着くことができました。参加者の皆様およびご支援、ご高配を賜りました方々に厚く御礼申し上げます。

日本における模擬国連25周年を機に、我々はグローバル・クラスルーム日本委員会を組織し、2007年の事業開始に向けて準備を進めてきました。そして、本派遣事業には、国際問題について意欲的に学んでいる高校生12名と引率として高校教諭6名が、全国各地から参加してくださいました。

本事業終了後、本事務局には「もっともっと国連について学んで行きたい」「一生忘れられない一週間だった」などの声が多数寄せられました。本派遣事業を通して、参加者の皆様が得られたものが今後の活躍につながる有意義なものであったならば、本事業を企画運営してきた者にとってこれ以上の喜びはありません。

ニューヨークで開催される全米高校模擬国連大会（UNA-USA Model UN Conference）への日本代表団の派遣は初めてのことであり、本書はその記録です。本書が模擬国連活動の更なる普及と発展の一助になることを願っております。

最後に改めまして、本派遣事業に暖かいご協力、ご支援下さいましたすべての皆様に、心よりお礼申し上げます。

グローバル・クラスルーム日本委員会  
事務局一同



## グローバル・ クラスルームとは

グローバル・クラスルームは、国連会議のシミュレーション（模擬国連）を通じて、現代の世界におけるさまざまな課題について学ぶための先進的な教育プログラムとして、公立中学校・高校を対象に、米国国連協会の提唱により始まりました。模擬国連に参加する学生は、国連加盟国の大使として、国際問題を討議し、決議案を作成し、賛成者・反対者と交渉し、国連の手続規則を駆使して、世界が直面する課題の解決に向けて、「国際協力」を実現していきます。

米国国連協会は、このグローバル・クラスルームを米国諸都市のみならず世界各地に普及させることで、国際理解教育と模擬国連の良さを多くの国の学校と共有するとともに、模擬国連コミュニティの裾野を広げようとしています。グローバル・クラスルームは、既に中国、インド、ドイツ、レバノン等で始まっています。また、関連して、グローバル・スポンサーのメリルリンチの協力の下、国際問題を討議する際に欠かすことができない経済や国際金融の知識を深めるためのプログラムも開催されてきました。

日本でも、大学生の模擬国連は 20 年以上の歴史があり、毎年全日本模擬国連大会が開催されています。高校生も、世界的なプログラムと連携して模擬国連を始める時が来ました。今般、グローバル・クラスルーム日本委員会が組織され、2007 年の事業を開始しました。

グローバル・クラスルーム日本委員会  
Japan Committee for Global Classrooms

模擬国連委員会（Japan Model United Nations Society: JMUNS）は、日本で始めて組織化された模擬国連活動を行う団体です。

1983 年上智大学において、当時上智大学教授だった緒方貞子（国際協力機構理事長／元国連難民高等弁務官）の顧問の下、発足した「模擬国連実行委員会」を前身としています。当初は毎年ニューヨークで開催されている模擬国連会議全米大会（National Model United Nations Conference）への日本代表団の派遣を中心に活動を行っていましたが、委員会の規模拡大に伴い、日本における模擬国連活動を本格化させ、名称を現在の模擬国連委員会に改名しました。

模擬国連委員会は、国際社会に貢献できるたくさんの人材を育成・輩出し、当委員会の活動に参加していた先輩たちは、さまざまな省庁や国際機関、民間企業、非政府組織など多分野に渡って国際社会に貢献する活躍をしています。

現在、模擬国連委員会の下には、早稲田・国立・四ッ谷・日吉の 4 つの研究会と九州・宇都宮・筑波の 3 つの支部があり、首都圏だけでは 30 近い大学から 300 名近い学生が活動に参加しています。

模擬国連委員会  
Japan Model United Nations Society





明石 康

スリランカ平和構築・復旧・復興担当日本政府代表  
／元国連事務次長／日本国際連合協会副会長

高校生が模擬国連会議に参加し、地球規模の課題について学習・議論することは大変貴重な経験です。単なる英会話の練習以上のものです。真剣で知的な学習を通じて眞のグローバルなコミュニケーション能力を高めることができます。日本の学生がこのような新たな挑戦に挑むことを期待します。



緒方 貞子

国際協力機構理事長／元国連難民高等弁務官

国連は、世界各地で平和と安全の確立、人道援助や開発支援などの努力を続けています。日本からも一人でも多くの高校生が、熱意を持って模擬国連に参加し、国際情勢を学び、より良い地球社会を作っていく人材に育つよう、望んでいます。

## 企画名称

2007 年全米高校模擬国連大会への日本代表団派遣

## 期日

2007 年 5 月 14 日（月）～20 日（日）

## 開催場所

米国ニューヨーク市

## 主催団体

グローバル・クラスルーム日本委員会

## 内容

5 月中旬に米国国連協会の主催により開催される全米高校模擬国連大会に、日本から高校生 12 名（6 校より各 2 名）の代表団を派遣すること。米国国内の 21 都市含む世界 14 か国（中国、インド、レバノン、スペイン、イスラエル、南アフリカ、ドイツ、イギリス、ブラジル、メキシコ、日本など）から参加。参加生徒数は約 2200 名。

## 企画概要

## 代表団構成

### 1) 高校生（12 名：次の 6 校より各 2 名）

- ・沖縄県立向陽高等学校
- ・公文国際学園高等部
- ・群馬県立前橋高等学校
- ・慶應義塾湘南藤沢高等部
- ・渋谷教育学園渋谷高等学校
- ・東京都立国際高等学校

### 2) 引率者（8 名）

- ・同 6 校より教諭各 1 名の計 6 名
- ・グローバル・クラスルーム日本委員会より 2 名

## 推薦の言葉

# 派遣報告

## 派遣日程

4月21日(土)	模擬国連一日体験会議
5月10日(木)	スウェーデン大使館訪問
5月14日(月)	NY到着 歓迎夕食会
5月15日(火)	NYの高校訪問
5月16日(水)	NYの中学校訪問 日本代表部訪問
5月17日(木)	日本人職員よりブリーフィング 支援団体訪問 模擬国連会議開催
5月18日(金)	模擬国連会議
5月19日(土)	模擬国連会議
5月20日(日)	NY出発

## 参加委員会

委員会	議題	担当高校
国連総会1	地球温暖化、開発の権利	沖縄県立向陽高等学校
国連総会2	水資源、民間部門の社会的責任	群馬県立前橋高等学校
国連総会欧州グループ	世界エイズ危機	公文国際学園高等部
ユニセフ	武力紛争下の子供、母子保健	慶應義塾湘南藤沢高等部
WHO	疫病への緊急対応、保健分野の人材	渋谷教育学園渋谷高等学校
UNRWA	難民の人権、難民の責任分担	東京都立国際高等学校



## 4月21日

### 【模擬国連一日体験会議】

メリルリンチ日本証券において、大学生と合同で模擬国連会議を行いました。はじめての会議であり戦闘苦闘しつつも、大学生に支えながら立派な大使を務めあげることができました。



## 5月10日

### 【スウェーデン大使館訪問】

渡米前、スウェーデン大使館を訪れ、スウェーデン大使から各議題に対する立場について貴重なお話を来ていただくことができました。



## 1st Day

### 【成田発、ニューヨークへ】

午前中に成田空港に集まり、昼の便でニューヨークへ。機内では、会議の準備にいそしむ姿が見られました。

### 【ニューヨーク到着】

ニューヨーク到着後はホテルに荷物を置き、観光を楽しみました。その後、各地の代表団を招いた歓迎夕食会が行われました。他の学生と会話を試みる様子が見られました。



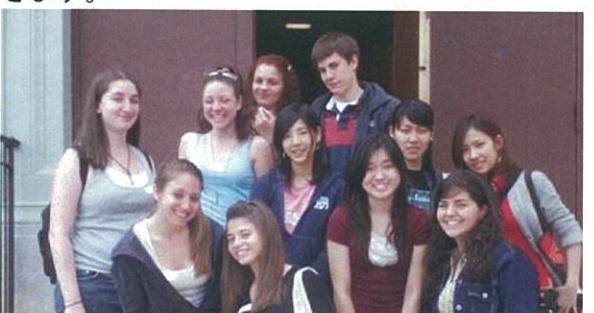
## 2nd Day

### 【高校訪問】

模擬会議に参加する地元の高校を訪問して意見交換を行いました。訪問校の担当国が日本ということもあり、日本の立場について意見を聞かれることが多かったようです。

### 【国連見学】

午後はニューヨークの国連本部を見学しました。普段ニュースでしかみないところに足を踏み入れて、生徒達も会議に向けて気持ちが高まっています。



## 3rd Day

### 【中学校訪問】

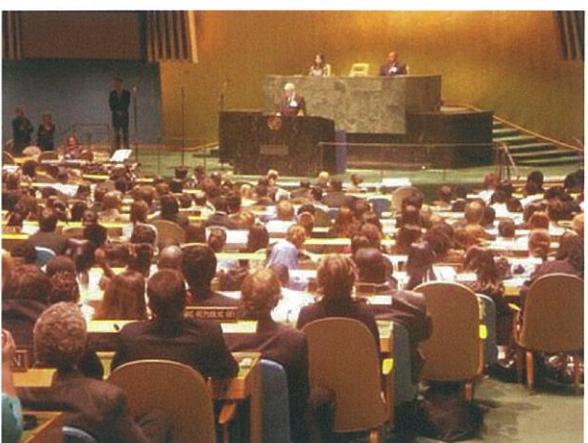
ニューヨークの中学校を訪問し、紙芝居と折り紙を披露。日本紹介を行いました。

### 【日本代表部訪問】

国連本部の日本政府代表部を表敬訪問しました。大島賢三大使をはじめとする日本代表の方々から議題や担当国の立場について貴重なお話しをしていただくことが出来ました。

### 【国連日本人職員によるブリーフィング】

国連で働く日本人職員とお会いし、国連での仕事について貴重なお話を来ていただくことが出来ました。



## 5th-6th Day

### 【模擬国連会議】

模擬会議では、議題ごとに分かれて4回のセッションを行いました。大人数の中での交渉に戸惑ったものの、積極的に会議に参加する様子が見られました。

### 【閉会式】

会議の興奮冷めやらぬまま、2日前と同じ国連総会会議場で閉会式が行われました。閉会式の授賞式では、日本代表団は公文国際高校にポジションペーパー賞が与えされました。

### 【ダンスパーティ】

会議で交渉をしていた「大使」も学生に戻り、ニューヨークの一角のダンスクラブで親睦を深めました。



## 4th Day

### 【代表団朝食会・メリルリンチ社訪問】

グローバル・スポンサーであるメリルリンチ社主催の朝食会に参加しました。

### 【開会式】

2000名を越える学生が集まり、国連総会会議場で開会式を行いました。翌日から始まる模擬会議に生徒達の緊張が高まります。



## 7th-8th Day

### 【帰国】

あっという間の1週間を終え、帰国の途につきました。会議の難しさや面白さ、1つのことを成し遂げた達成感が生徒達の表情に表れています。

## 菅野 雅聰

一橋大学3年

2007年度模擬国連委員会研究主任

### 「グローバル・クラスルーム」

～模擬国連の新たな試金石～

感想文を書くにあたって、ニューヨークでの模擬会議やプログラムから得た経験については参加者の高校生が書くであろうから、私はここで模擬国連を教育プログラムと見たときに今回にグローバル・クラスルームが拓く展望について述べたいと思う。

教育プログラムとして模擬国連を捉えたとき、日本のそれはちょうど過渡期にあるように思われる。現在日本でもいくつかの高校で模擬国連活動が行われているが、未だ多くの人が模擬国連についてよく知らないのが現状である。それに対照的なのが諸外国、とりわけアメリカであり、アメリカでは数多くの高校、大学でサークルとして、授業の一環として模擬国連活動が行われている。印象的だったのは、ニューヨーク到着の翌日に訪問したジェームズ・メディソン高校の廊下に掲げてあったクラブ活動一覧のボードに「Model UN」とはっきり記されていたことだった。そして驚くべきは、今回の大会にニューヨークの高校が100校以上参加したことである。

翻って日本を見てみると、一部の大学、高校で模擬国連が行われているだけであり、特に全国的に高校生が模擬国連に参加する機会というのは限られている。ここで高校生が模擬国連をやる意義をまず考えてみたい。それを私なりにまとめてみると、(1) 英語学習としての模擬国連、(2) 議論、パブリックスピーチ能力向上のための模擬国連、(3) 國際問題の理解のための模擬国連、(4) 視点を相対化するための模擬国連の4つがおおまかに挙げられる。

(1)と(2)についてはこれからの人材に必要とされるスキルを獲得するためのものである。現在、社会はかつて以上に能動的、創造的な人材を求めており、そこでは自分の考えを説得的に相手に訴える力というものが不可欠のものとされる。模擬国連では、刻々と変化する会議の中において担当国の主張や利害を理解した上で、

## 参加者報告

## Global Classrooms

それに反さないような様々な提案や交渉を行っていかなくてはならない。こうした自主性や発想力といったものを模擬国連では鍛えることができる。しかし、それだけでは英語のディベートと大差ないと見えよう。模擬国連を特徴付いているのは（3）と（4）に関わる、国際問題をいかに考えるかという点に他ならない。模擬国連では多種多様な国際問題を扱い、それらは環境問題から人権問題、安全保障の問題まで多岐に渡る。数々の議題について多様な担当国の立場から考えることで現在の国際関係と国際問題の見取り図を頭の中に描けるようになるのは、非常に有意義なことである。とりわけ担当国を通して、ときに非合理的とも思える主張を行うことは、国際政治のリアリティを感じさせるに十分である。私は、模擬国連を通して国際問題の解決策を考えると同時に、なぜその問題が解決されないのかを学んだ。私は、現在研究者を志しているが、それを突き動かす原動力の一つが模擬国連を通して得たこうした問題意識である。模擬国連は取り組み方によって、様々なことを学ぶことができる。国際問題に関心のある、そして社会の想像力を担う多くの高校生、あるいは中学生に、模擬国連から各自の問題意識を掘り出し、考えてもらいたいと思うのである。

ここまで模擬国連を学生が行うことについての期待を述べてきたが、次に現実的な課題と解決策について検討してみたいと思う。まず、模擬国連を行ってみようとしても、その導入の敷居の高さがある。というのも、模擬国連には会議の進行上の独特の手続きがあり、その手続き事項を理解しなければならないからである。これについては、高校生向けに複雑な手続きを簡略化し、議論の内容を深められるように会議の仕向けることが考えられる。次に問題として挙げられるのが、英語の問題である。担当国のリサーチに用いる言語の割合は日本語が2から4に対して英語が6から8程度であろう。すなわち模擬会議を行う上で相応の英語運用能力が求められるのである。これは英語の得意・不得意によって参加できる学生を限定してしまいかねない。代替案としては、日本語化された国連文書が入手できるような議題（例えば核問題）を扱うことが考えられる。この他にもまだ課題はあるが、ここで考えたいもうひとつの課題

は、教える人がいないということであり、そもそも知名度が高くないということである。前者の問題に対しては模擬国連委員会や関西模擬国連が何らかの形で対応できるだろう（私は今、これから模擬国連を始めようとする人、団体のためのスター・ブックなるものを構想している）。また後者の課題については、グローバル・クラスルームが目下知名度の向上と模擬国連に参加する場の提供という役割を担っていくだろう。しかし、これについても距離の問題や英語力の問題などがある。

模擬国連という活動をより社会に開いていくためには、グローバル・クラスルームでの経験というものをこれから模擬国連の導入に生かしていく必要がある。今回、そうした取り組みの第一歩に携われたことは、これまで模擬国連に何らかの期待を持って望んできた自分にとって、その期待をある程度確信させてくれるものであった。ただし、この事業をより発展させるために出来ること、やらないことはたくさんある。

最後になりますが、今回多くの方々に事業を成功させるためのご支援、ご指摘をいただきました。それらのご協力がなければ、とても2名の学生だけでこれほどの成果を上げることはできなかつたでしょう。ありがとうございました。また、先生方や参加者には、スタディ・プランの提供などでご迷惑をおかけしました。とりわけ高校生の皆さん、私の微々たる仕事が、参加した模擬会議において、そして皆さんの今後において少しでも役立つところがあつたならば願ってもない幸いです。そして私が模擬国連に入ったときから常にリードして頂いた新保さんに、今回のような機会を与えていただいたことに感謝したいと思います。直接には会わなかつた人も、多くの人が関与して今回の事業は成功しました。こうした見えないところに思いを遣ることは、国際問題の見えない根源を想像することに通じるものがあると思います。秋には高校生の大会が控えていますが、これまで自分が学ぶための模擬国連だけではなく、想像力、思考力を刺激する、他者に伝えるひらかれた模擬国連をそこでは目指していきたいと考えています。

## Global Classrooms

**百武 美沙**  
慶應義塾湘南藤沢高等部3年

「絶対に行きたいっ！」

クラス掲示で、ニューヨークに行って模擬国連に出ることについての張り紙を見た時は、心が躍った。高校2年生の冬になつてもまだ進路は決まっていなかつたが、国際的な仕事がしたい、日本だけでなく世界中の人たちが幸せで、環境にも優しい、そんな世界を作りたい…でもどうしたら作れるのだろう、などと漠然と考えていた。アメリカに住んで以来、環境問題や同士の関係などに強い関心を持っていた私は、これこそ私の将来、未来への第一歩だと確信した。

運が良かったのと、私の熱意も伝わったようで、晴れて、私と小学校時代から縁の松江理咲がニューヨークへ行くことが決まった。

私たち、日本の高校生が代表するのは、スウェーデン。あまり馴染みのない国だった。知っていることと言えば、スウェーデンは北欧のどこかにあって、豊かな国らしい、ということくらい。しかし、調べれば調べるほど、スウェーデンの国連に対してだけではなく、様々な国際面での活躍や援助などのことについて分かり、興味深かったです。模擬国連の準備を通じ、一番痛感したのは、模擬国連に参加する、というのは、スピーチや交渉をしたり、文章を書く技術を身につけるだけでなく、自分が大使となる国をリサーチして熟知し、親近感を持つ、という普段の生活では得難い知識と経験を得られることだ。

ニューヨークでの滞在は1週間。帰国直後に中間テストを控えた私は、模擬国連の準備と中間テストの準備の両方に追われ、てんてこ舞いだつたが、何とかポジションペーパーも作成し、成田空港から飛び立つことが出来た。最初は緊張したが、他校からの10人の生徒たちともすぐに仲良くなれて、夕食後はよく集まって夜遅くまでゲームをしたり語ったり、時には一緒に勉強したり、かけがえのない仲間を得ることが出来た。日本各地から来た生徒なので、すぐに集まってまた遊ぶ、という訳にはいかないが、

これからも連絡をとり合ってこのグループの絆を保っていきたい。

ニューヨーク到着後は、外国から来た生徒達のウェルカムディナー、現地の高校・中学校の訪問、日本国際連合代表の方々との会議、今回のイベントのスポンサー、メリルリンチ社による朝食会及び講演会、模擬国連のためのトレーニングセッション、そして、本番、模擬国連会議。たくさんのイベントが目の回るような速さで起つたが、どれも充実し、私たち生徒に一生残る経験となったと思う。

その中で特に印象強かったのは、現地の学校訪問だ。まず、模擬国連に参加していて今回は日本大使を務める、James Madison High Schoolに行った。まるで大学のように大きい建物、広いフットボールフィールド。何より驚いたのは、入り口でのセキュリティーゲートだ。この学校の生徒達は、金属探知機を毎朝通るだけでなく、携帯だけでなく、アイポッドなど電化機器も禁止。私の学校よりもずっとルールは厳しい。金属探知機は、さすがニューヨーク、としか言いようがなかった。学校に着いたら、James Madison High Schoolの生徒3,4人が私たち2人ごとに付いて、学校を案内してくれた。模擬国連に参加する生徒同士、ということで日本の外交のことなどを聞かれたらどうしよう、と内心焦っていたが、それは杞憂に終わった。「日本の高校ってどんな感じ?」「週末とか何して遊ぶの?」「私もMUN今年初めてなんだ」などで会話が弾んだ。そして学校案内の後は、ピザをふるまってくれた。ピザと言っても、異常に大きくて、油がぎっしり、チーズがデロデロとしていて、形も不恰好。美味しかったのか、あまり美味しくなかったのかよく分からなかつたが、日本からのお土産を渡したり、みんなでおしゃべりをしながら食べた昼食は、とても楽しかった。帰る前にみんなでメールアドレスを交換して、連絡をとる約束をした。このような関係が、将来的な国際理解、あわよくば世界平和に繋がってくれるといいな、と思った。

次の日に訪れたのは、Kappa IIIという中学校。この中学校はとてもユニークで、公立だけれど、制服を着させ、全生徒が楽器を弾くことを必修とし、まるで私立の学校のような教育を

## Global Classrooms

子供に与えることを目標としている。8歳と聞いていたのに、何の手違いだったのか、私たちが相手をしたのは8年生、つまり中学2年生だったので少し動搖した。しかし、前の晩に打ち合せたとおり、私たちは浦島太郎の紙芝居を読んで聞かせた後、折り紙でカエルを作り、手作りカエルでジャンプコンテストを開催。勝った子にはもちろん豪華商品付きだ。優勝した子は商品に剣玉を選んだが、なかなか穴に入れられずに四苦八苦して「やっぱりお菓子にすればよかったー」と嘆いていて、その様子がとても可愛かった。次は質問タイム。日本語の単語や言葉に関する質問が多くだったので、日本語で「私の名前は～です」という言い方を一人ひとりに試してもらう、日本語レッスンを行った。生徒の名前を知ると同時に、アメリカの中学生も楽しく日本語と触れ合えて良かった。そして、最後は、Kappa IIIの生徒達が楽器を披露してくれた。まだ多少バラバラなところもあったが、入学した時は全く楽器を弾けなかった、と聞いて驚いた。あまり裕福ではないのだと、道を歩いていればすぐ分かるようなところに住んでいる子供達に、きちんとした教育のみならず、芸術まで教えようとする中学校がアメリカにある事を知り感心した。このような学校がアメリカ全国で増えれば、アメリカ内の貧富の差、治安の悪さも緩和されるのでは、と思った。

そして、最後の2日間は待ちに待った模擬国連会議。1日目は、Grand Hyatt Hotelにての会議だった。私たちが担当したUNICEFは総勢70人で、どちらかというと規模が小さめの会議だったので、発言がしやすく、メンバーの顔や国をすぐ覚えられたのが良かった。会議スタート早々、私たちスウェーデンにカナダからメモが回って来てびっくりした。最初は戸惑いが多かったものの、だんだん慣れてきて、Moderated Caucusでスウェーデンの立場について主張したり、Unmoderated Caucusでは、仲間を集め、話し合ったり、など積極的に会議に参加することが出来た。思ったよりもスピーチの時間が短くて困ったが、スピーチの時間以外にも、CaucusやPoint of Informationなど、自分の意見を示せる場がたくさんあることを知った。

2日目の会議は、本物の国際連合総会ビルの

会議室で行われた。「この部屋で、本当に世界各国のリーダー達が意見をぶつけあつたりしているのだ」と思うだけで、ドキドキした。2日目は作成するドラフトレゾリューションの方向性が決まると、それを書く国以外は、特にこれといった仕事がなくなってしまい、専ら友達作りのようになってしまったのが、残念だったと同時に良い機会になった。もっと話し合いや書類作りに参加したかったが、書き途中のものを無理に見せてもらうのは難しく、Unmoderated Caucusでは書いている国の代表を、他10カ国ほどが覗き込んでいる、という状態で、とても近づけなかった。自分達でドラフトレゾリューションを書くのが一番良かったのだが、もう既に書いている国はそれらの国同士で、内容を相談し示し合わせていて、今から「私たちも」と言って入って良い雰囲気では無かったのだ。次回は、是非もっと書類作りにも関わっていきたいと思う。レゾリューションが作成されている間は、手の空いている生徒達が私たちを質問攻めにした。日本に興味を持っている高校生はとても多く、「一番行ってみたい国は日本だ」という子もたくさんいて驚いた。国連会議の主旨から少しずれてしまったが、良い文化交流の場になっていた。全体的に見て、反省点も多々あるが、収穫がとても多い会議となった。

しかし、模擬国連の余韻に浸る間もなく、帰国したらすぐ、学生の悲しい本分、中間テストが私たちを待っていた。高校3年生の大事な時期だったが、今しか出来ない事、将来に繋がる事を経験でき、本当に良かったと思う。中間テストの成績はいまいちだったが、それ以上に得たものは大きかったと信じたい。この経験を通じて、国際連合という組織をもっと身近に感じることができた。それと同時に、様々な違う立場、意見や考え方を持った国々が話し合い、問題解決に臨む難しさを実感した。

## Global Classrooms

## 松江 理咲

慶應義塾湘南藤沢高等部3年

私は将来国連などの国際機関で働きたいという夢を持っている。高校生の私がニューヨークの国連本部での模擬国連に参加することができ、お世話になった先生方、応援してくださった皆様に心から感謝している。実際の模擬国連に参加した2日間だけではなく、訪問したPrimary SchoolとJames Madison High Schoolでの経験や模擬国連に参加した他の生徒達、併に参加してくださった先生方や関係者の方々との出会いも含め、一週間という短い期間の中で私はたくさんの刺激を受けたくさんの素晴らしい経験をすることができた。

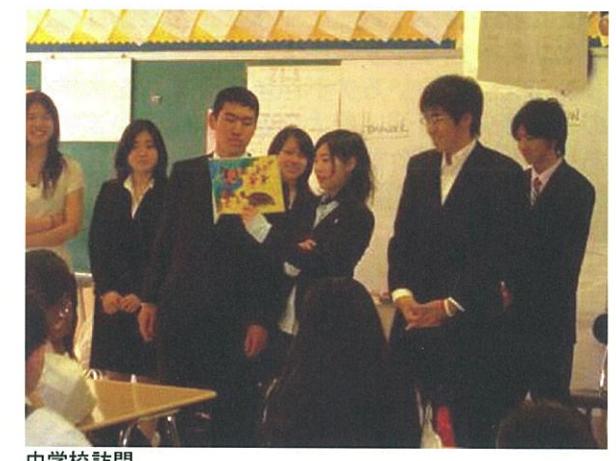
私は十年間アメリカに暮らしていたので、ニューヨークの学校に対して何の違和感も感じないだろうと思っていた。しかし実際に訪問し、その学校の生徒の話を聞いて、私の知っているアメリカの学校とまったく違う世界を見たような気がした。James Madison High Schoolでは、校内に入る前に金属探知機を通らなくてはいけなかった。これにはともビックリしたが、その学校に通う生徒達は皆当たり前のよう、「少し面倒だけど学校はこんなものよ」と言われてしまった。また、クラスが終わりチャイムがなるたびに廊下には数人の警備官が歩き回っていて、廊下にたまっている生徒達に早く次に授業に行きなさいと怒鳴りつけていた。アメリカで通っていた学校でも日本の学校でも、このような光景を見ることはなかった。国によって、地域にもよってこんなにもいろいろな「学校」があることを改めて知った。

国連の様々な部署で働く人たちにお話を聞くこともできた。実際働いている人たちに会い、その人たちの功績を肌で感じ、自分の夢を実現させるモティベーションを高める事が出来た。

そして、この一週間の旅の最終目的である模擬国連であるが、本当にいろいろ勉強になった。他の視点から物事を考えることももちろん大変だったが、それ以上に、自分の意見を他の代表者たちに聞いてもらうことの大変さを実感した。英語では何の不自由もないつもりでいるが、本当に自分の意見が正しいのか、他の国はどう

考えているのか、高校生の自分の知識や経験の未熟さを痛感した。これは経験を重ね、知識をたくさん蓄えることで少しづつ改善していくしかないのであろう。そして、もう一つ学んだ大切なことは、「国連」とは一体何かということ。国連は決してディベートをする場でもなければ、自分の国の立場を主張する場でもない。会議で議論する代表者達は、自分の国の利益のことを考えるのではなく、世界の国すべてに最善製をつくさなくてはいけない。もちろん自分の国の立場、意見を発言する必要はあるが、最終的にはより平和で平等な世界にすることを常に最優先にしながら行動をとらなくてはならない。従って、模擬国連で最も意見を尊重されるべき代表者とは自分の国の意見を上手く主張した者ではなく、他国の事情や意見を理解し、その上で世界全体への貢献につながる発言ができる者である。私はこの素晴らしい国連のコンセプトをしっかり頭に叩き込んでおきたいと思った。

今回のMUNという貴重な体験をいかして、これからも多くの国際関係の行事に積極的に参加していきたい。そして将来、必ず世界という場で活躍していきたいと考えている。



中学校訪問

## Global Classrooms

丸山 明子

東京都立国際高等学校 2 年

私はニューヨークの全米模擬国連の会議に参加し、この文章の中では表しきれない程多くのすばらしい体験をしました。

今回の会議では私とパートナーの田中さんはUNRWAの議会でパレスチナ難民の人権と責任分担の主題にスウェーデン大使として討論してきました。全米や世界中から集まった生徒達と会議をするという貴重な体験を通して、自分の力不足を痛感しました。例えば、自分の知識や意見が通用するかどうかをチャレンジするために会議に出たのに、実際は言語力の壁にぶつかりました。自分と同じことを言っていても言葉やボディーランゲージの使い方一つで説得力が全く違うと強く感じました。私は訴えたい意見があっても今一つ伝わり方が納得出来ないシチュエーションが多かったです。そして、私が一番困難に感じたのは自分が国を代表した大使として会議に出ていたことでした。どれだけ自分の意見があっても国のポリシーに逆らってはいけないし、新しい提案をするにも自分の国的事情を完璧に知った上だったので大使になるということがどれだけすごいことかと実感しました。

結果的、この会議は私にとってとても苦しかったけど、それ以上に得たものは大きかったし、ものすごく楽しかったです。この会議で体験した良かったこと悪かったことは今の自分をものすごく成長させてくれて将来にも絶対活かしていきます。そして、こんな貴重な体験に参加できたことを誇りに思っています。お世話になった先生方、渡米をサポートして下さったメリルリンチ社、いろいろアドバイスをくれた大学生のみなさまや皆様に最大の感謝をしています。ありがとうございました！！

田中 恵麻

東京都立国際高等学校 2 年

私が模擬国連を知ったのは今年の 2 月下旬のことだった。ある日のホームルームで担任の先生が全米模擬国連大会というものが 5 月に行われるることを話した。正直模擬国連とは一体なんなのか全く知らなかったが、アメリカで世界中の高校生が国際問題について討議するということで、前から国際問題や国際関係に興味を抱いていた私は迷わず応募した。まさか選ばれるとは思っていなかったので、出場が決定したときは本当に嬉しかった。会議までの準備期間はわずか 2 ヶ月しかなかったが、その 2 ヶ月間は大好きな部活を一切我慢して私達の担当するパレスチナ難民問題のためのリサーチに専念した。私たちは日本代表だけれど、スウェーデン大使として会議に参加するということで、スエーデンからみるパレスチナ難民について調べるのはとても難しかった。しかも私の学校には MUN を教えていた先生がいないので、模擬国連について自分たちで一から学ぶ必要があった。体験会議では議事進行の方法をあまり把握できていなかったので、大変とまどった。また、他校の生徒の知的なスピーチに圧倒された。これはさすがにやばいと思い、それから出発までの 3 週間は必死で議事進行や決議案などについて学んだ。

そうこうしているうちに出発の日がやってきて、不安と期待で胸がいっぱいの状態でニューヨークへ到着した。会議までの 4 日間は、始めて訪れた NY での滞在を陽気で個性豊かな仲間達と存分に満喫した。特に思い出深かったのは James Madison High School への訪問だ。生徒達のいきいき、のびのびとした姿がとても印象深く、この高校に転校してみたいとまで思った。帰りにはメールアドレスを交換し、日本のおみやげとして扇子をプレゼントしたら予想以上に喜んでもらえてよかったです。また、国際連合日本政府代表部へ訪問した際には国連の様々な分野で活躍する方々の実体験を聞き、彼らの熱意がひしひしと感じられた。そんな、私にとって様々な新体験が凝縮された 4 日間もあつという間に過ぎ、いよいよ本来の目的である模擬国連会議当日がやってきた。前日の夜は緊張してよく眠れなかつたが、スーツを着て気持ちを引き

## Global Classrooms

締めると、私達はもうただの高校生ではなく、スウェーデン大使になりきっていた。会議が始まるとまず最初に、どちらの議題を先に討議するか、という決議が取られる。そこで「Human Rights of Refugees」について先に討議したいという丸山さんの主張通り、そのあと私の第一の目標だったスピーチを成し遂げる事が出来た。時間が限られていたため少し早口になってしまったが、伝えたかったことが伝えられたと思うのでよかったです。そのあとは Unmoderated Caucus に積極的に参加したが、残念ながら Moderated Caucus ではあまり発言することができなかった。やはりアメリカの生徒は話し方がうまい。説得力がある。交渉にも慣れた様子で、反論にも強気に対応していた。私達もできるかぎりのことを勉強したつもりだったが、やはり一年間みっちり訓練を受けた優秀な高校生には圧倒されてしまった。この会議に参加することで、私達の努力不足を実感し、これからは英語力だけでなく、説得力のある話し方などもさらに磨いていく必要があるな、と思った。しかしそれと同時に、国連会議の進行方法や決議案作成の方法を理解したことで会議のおもしろさを知り、国連に関するさらなる興味が湧いてきた。

この NY での 1 週間は言葉で表しきれないほどすばらしい思い出になりました。また、ここで養った仲間との友情は一生ものです！こんな貴重な体験をさせていただいたメリルリンチ様や中満様、先生方、大学生の皆様、その他大勢の皆様、本当にありがとうございました！！



国連日本政府代表部 大島賢三大使と星野公使参事官

金城 奈々子

沖縄県立向陽高等学校 2 年

私は今回の模擬国連大会を通して本当にたくさんの事を学ぶ事が出来ました。しかし、会議本番を迎えるまで大変だった事も数多くありました。大会に参加する他校の生徒と顔合わせをした体験会議で、周りの英語のレベルの高さに圧倒され、私の英語で一国の大天使など本当に務まるのだろうか、ましてや日本人以外の人達と会議をする事など出来るのだろうかという不安で一杯になりました。また、パートナーである一気さんは 3 年生という事もあり、私より模擬国連についての知識や実力があり、会議で足を引っ張ってしまうのではないかなどの不安もありました。

NY 入りしたその日から歓迎夕食会など、休む時間も無いほど忙しく、海外経験の無かった私には多少きつい部分もありました。しかし、1 週間という短い期間の中で高校訪問や小学校訪問、今回のメインである会議に参加することやその他色々なスケジュールが詰まっていて疲れている暇などないくらいでした。また、私は沖縄からの参加ということもあり、皆と別の飛行機だったので仲良くなるのに時間が掛かってしまうのではないかと心配していたのですが、その必要はありませんでした。皆がフレンドリーに接してくれたお陰で自身の中にずっとあった会議に対する不安などが全て消えました。

高校訪問では、生徒達とたくさんコミュニケーションをとる事ができ、とても良い異文化交流になったのではないかと思います。また小学校訪問では、日本の紙芝居を読み、日本のおもちゃやお菓子を紹介したりなど、生徒達に身近な物を通して日本文化をたくさん伝えることが出来たと思います。

さて、本題の会議についてですが、私が予想していたよりもとても参加しやすい雰囲気だったし、とてもリラックスして参加することが出来ました。また必ずスピーチをするという私自身の目標も達成する事も出来ました。しかし、GA という事もあり何百人という大使がいたので、スピーチのリストに載るもの大変で、発言するとなるとさらに難しくなっていました。私

## Global Classrooms

もなかなか発言するタイミングが掴めず、結局出来ませんでしたが、私が一番心配していた英語でのスピーチやコミュニケーションは自分でも思った以上に上手くいったのではないかと思います。また、会議中に後ろにいたある大使に軽い嫌みの様な事を言われたり、参加すると一言も言っていないのに決議案を押しつけられそうになったりというハプニング(?)もありましたが、そんな事も楽しみながら会議を進めて行くことが出来ました。しかし、未だに心残りなのは他国との交渉で相手を説得出来なかった事と、積極的に発言をする事が出来なかった事です。もし再び会議に参加出来るのなら、この2つの点を改善し、会議を引っ張っていけるようにしたいと思っています。

今回このプログラムに参加することができ、大変嬉しく思っています。この大会で学んだ事はこれから私の人生を大きく左右すると言つても過言ではありません。また今までよりさらに模擬国連会議というものにとても魅力を感じ、もっともっと模擬国連について学んで行きたいと思いました。今回学んだ事を、からの学校生活等に全て活かし、頑張ります。今回この大会のスポンサーのメリルリンチ社、NYに同行して下さった先生方や、この大会に携わって下さった関係者の皆様に感謝しています。本当に有り難うございました。



模擬国連会議

### 喜友名 一氣

沖縄県立向陽高等学校 3年

こんにちは、沖縄から参加した喜友名一氣です。私の苗字は「喜んでいる友の名」と書きます。自分でもお気に入りの名前なのですけれど、皆さんという友が出来、一緒にいろいろな経験が出来たことを心から喜んでいます。これからもよろしくおねがいします。

今回の全米模擬国連大会は、私のこれまでの6回の模擬国連の経験を遙かに上回る、とても貴重な体験をさせていただきました。「世界を舞台にする」という事を肌で感じることができましたし、さまざまな国々の人たちの個性に触れる貴重な機会を得ることができました。

一日目、沖縄のメンバーは別行動でしたので、夕食会のときからの合流というかたちになりました。そこでスペインからの大使と仲良くなり、他の大使の方々とも話ができ、そのころから本格的に国際的なステージが始まるのだなと実感しました。

二日目、待ち合わせの時間、朝7:15にロビーに行つたのですけれど誰もいませんでした。はぐれたかと思ったのですが、実はサマータイムで時間を一時間調整する必要があったのに、それをしていなかった為のミスでした。自分でも笑ってしまいましたけれど、それも大陸ならではの体験です。ちなみに、アメリカは2年くらい前にも来ているのですけれど、その時はレンタカーを使っての自由気ままのファミリー旅行で、時間などはほとんど気にせず行動していましたから、今回のような経験は貴重でした。

翌日、いよいよ全米模擬国連大会がスタートしました。開会式は国連総会の会場で行われ、実際に大使たちの席に座ることができました。開会式はとてもよいムードでした。開会式の終了後はグランド・セントラル駅のレストランでの夕食会です。そこでは菅野さんのバース・ディ・パーティもできて、たのしい一日でした。

翌日、ホテルでの模擬国連会議です。私たちの担当であるスウェーデンを Speakers List の20番目にのせる事が出来ました。会議の二日目

## Global Classrooms

は実際の国連会場を使っての会議です。頭の中で感動的な演出をしようと考えスピーチ原稿をまとめ、この日の会議に臨みました。しかしながらまだ詰めが甘く、自分としては反省の残る日となりました。まあしかし、これも次回のステップにきっとなると思っています。コーカスの時間などで話しあい、ジャマイカのつくった Draft Resolution にスポンサーとして入ることが出来たのですけれど、これが時間の関係で受理されず、あわててしまいました。しかしなんとか切り抜けて、バングラディッシュの大使を説得して入り込むことが出来ました。その DR は投票行動で多数の賛成を得ることができ、そのときの満足感はひとしおでした。きっと皆さんも体験していることだろうと思います。

時間も流れ、閉会式も終わり、ラストはダンス・パーティです。ホールはとなりの人との会話さえ出来ないほどの大音量で、ものすごくエネルギーッシュな空間でした。しばらくあっけにとられていたのですが、しだいに私もはじけて、三時間があつという間の短さに思えました。みんなダンスは上手でしたけれど、特にアキラ君のダンスは、今思い出しても笑いがこみあげてくるほどユニークでした。そういうしながらも時は流れ、なんと7日もたってしまったんですね。

最終日はいつの間にか眠りに落ちて、仲間を見送ることも出来ず、とても残念な思いをしています。すみませんでした。少し落ち込んでいたのですけれど、何人かからメールでまた元気が出ました。「また報告会で…」そういう内容のメールにメンバーの暖かさを感じています。

無事私も沖縄に戻り、今はハンドボールの大会にむけて練習をしているところです。みなさんもきっとそれぞれ充実した日々を送っていることでしょう。

今回のメンバーはみな親しみやすく、個性的でたのしい人たちでした。今回のNYは、みなさんとの結びつきがなかったら、こんなに充実したものにはならなかつたでしょう。これからもよき友でいられたらとおもっています。

多大なサポートを下さったメリルリンチ社をはじめ、関わってくれた方々に心から感謝を込

めて筆をおろすことにしたいと思います。後輩を育てる、ということにこれだけ熱意をもって下さっていることにびっくりしています。

私の住んでいる沖縄は外交のキーストーンの一つでもあります。これから私の積極的な活動のエネルギーに変えることで、お礼にできたらと考えています。本当にありがとうございました。



中学校訪問

## Global Classrooms

## 石井 紘理

公文国際学園高等部2年

公文国際学園では6年前から THIMUN(The Hague International Model United Nations)や SPIMUN(Saint Petersburg International Model United Nations)、THIMUN-Singaporeといった模擬国連に参加していて、私と野口さんは中三のときの THIMUN-Singapore、高一のときの THIMUN と今回で3度目の MUN でした。

今までの MUN は、参加経験のある先輩たちに会議の進行や議論の運び方を教えてもらい準備をする事ができましたが、今回の UNA-USA の会議形式はわたし達が経験してきた会議形式と違ったので何をどう準備すればいいのか最初はよくわかりませんでした。会議の日数も THIMUN は5日間もあるので場の空気を読んで立直すという事ができましたが、今回は2日間しかないということで他の参加者が急ピッチで会議を進めるのではないか、自分たちが波に乗る前に会議が終わってしまうのではないかと不安でした。

ひとつ心強かったのはわたし達が入っていた委員会(GA Regional)に議題が1つしかなく、2人で1つの議題(世界 AIDS 危機)について協力しながら準備ができるということでした。問題範囲が広い議題だったので、2人で1つのものを集中して読み込んだり、細かいところは役割分担をしたりすることができました。

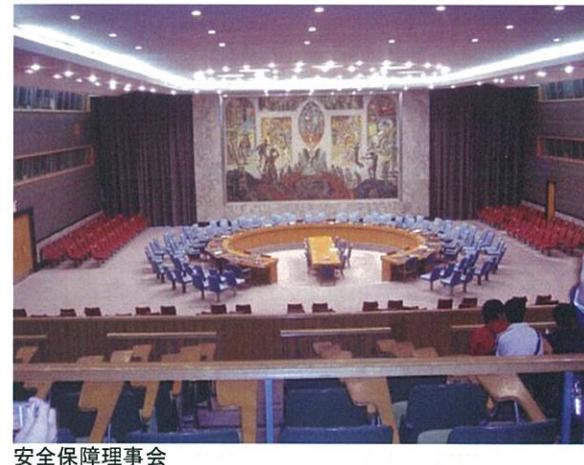
会議初日、わたし達は Sweden 代表を務めていたので GA Regional Western Europe という 30カ国 60名の小さなグループの中で会議をしました。アジア人の参加者が少ないという事で議長団や会議参加者はわたし達に興味津々で会議が始まる前から積極的に話しかけて来てくれました。会議の中では、わたし達が焦点を当ててきた女性と子供の問題についてたくさん話す事ができました。AIDS という議題上、高校生同士話しにくい部分が出てくるのではないかと心配していましたが、他の高校生は全くそういうことを気にしていないようでわたし達も楽に話す事ができました。文化的な違いなのか、なりきっているからなのかわかりませんでした

が、日本で普段友達と真面目に議論しあわない AIDS 危機という問題についてはっきりと議論できる事はすばらしい事だなと思い、いい経験をすることができているのだなと思いました。

二日目、わたし達 GA Regional は国連の GA ホールで会議をする事ができました。総会だったのでホールには全参加国がいて、発言などは自分の前にあるマイクを通して行いました。会議最終日だったということで議長はまだ発言していない国を積極的に当てていて、高校生の会議として議長もいろいろ考えているんだなあと感じました。会議内容は、決議案自体についての審議が少ないと感じました。

今回わたし達が作成に参加した決議案は一日目の時点で否決されてしまいましたが、自分たちが必要だと思う事を積極的に訴える事はできたと思います。違う文化、母語を持つ初対面の人と、自分は日本人としてではなく別の國の人として、国際問題について各自で勉強し、話し合えたという経験は一生、いつ思い出してもすごい事ができたといえるとあらためて思いました。わたし達の失敗や成功を後輩たちに引き継ぎたいです。

今回こんなにすばらしい経験ができるようにしてくれた方々に感謝します。本当にありがとうございました。



安全保障理事会

## Global Classrooms

## 野口 藍

公文国際学園高等部2年

会議は正味 2 日間と言う、かなり短い期間で行われました。会議が始まる前に、開会式を国連本部の総会が開かれる Great Hall でやりました。規模もかなり大きく、今回の参加者は約 2300 人だったそうです。

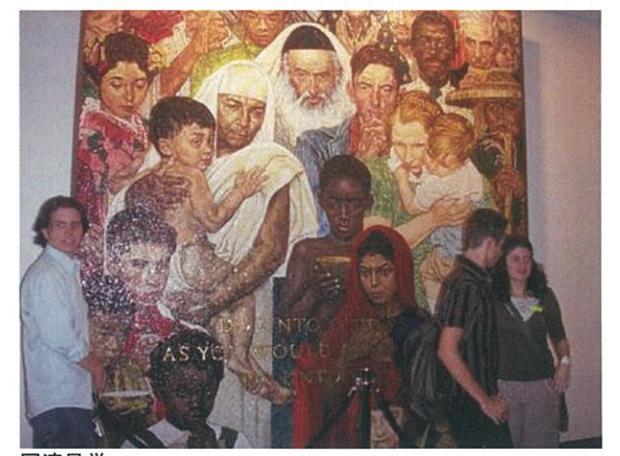
会議初日。会場は Grand Hyatt Hotel のいくつもの Conference Room のうちの一つでした。GA だったので地域ごとに部屋が仕分けされていました。Sweden 代表だった私達は西ヨーロッパとその他の地域に分けられ、30 カ国 60 人が集まった部屋でディベートを開始しました。私が今回担当した議題は世界エイズ危機についてです。会議をより活性化させるために各国がそれぞれ意見を述べられる機会が設けられます。それが Speaker's List です。このリストに国名を載せる事によって自分たちの立場等を他国に明確にしていきます。運よく Sweden は最初に議長に当ててもらえたので、会議の中で一番初めに喋る事が出来ました。西ヨーロッパはイギリス、フランスやドイツ、それにアメリカ等経済的に豊かな国が沢山いたので発展途上国に対する経済的支援についての議論が白熱しました。この他にも貧しい子供達を学校に通わせる方法、学校でのエイズに対する教育、コンドームの無料配布や抗生物質の薬の宣伝等の問題が取り上げられました。沢山の問題について一つずつ 1 番解決していくのに効果的な方法を編み出す作業がとても楽しかったです。Un-moderated caucus と言う時間もあり、沢山の人とエイズについて議論してお互いに自由に意見を述べ合ったりもしました。時間が経つうちにそれぞれグループに分かれ、ドラフトを着々と書き上げて行きました。私達がスポンサーとなったドラフトは残念ながら否決されてしまいましたが、凄く有意義で沢山の事を経験し、学んだ 1 日でした。

会議最終日。会場は国連本部でした。運良く私達は GA だったので総会で会議をする事が出来ました。本物の議員になったみたいで感動していました。会場の大きさと規模に圧倒されつつ、今度は西ヨーロッパだけではなく世界中の国と共に議論を楽しみました。さすがにそ

の時は多少緊張し、思うように発言は出来ませんでしたが、他国の考え方聞くのも良い勉強になりましたし、実際の国連がどのような活動をしているかも体験出来たのではないかと感じています。

今回の模擬国連では自分に自信を持つ事、そして恥ずかしがらずに沢山の人とコミュニケーションをとる事を学びました。実際に壇上で喋ると気持ちが良いし、達成感も味わえました。沢山のネイティブがいる中、ちゃんと通じ合って会議を進め、発言をする事も学びました。会議が終わった後、自分が別人のように感じられ、より英語や世間の出来事について興味を持ち、勉強して行きたいと言う意欲も湧いて来ました。

私達にこのような素晴らしい機会を与えて下さった皆様、どうも有難うございました。これからも世の中に貢献出来るような人間を目指し、精一杯頑張って行きたいと思います。



国連見学

## Global Classrooms

## 中澤 慧

群馬県立前橋高等学校 2 年

今回の海外派遣は、私にとって英語を海外で使う初めての機会でした。それに伴って、英語を使うやりがいと英語を理解する苦労を感じた一週間でした。学校訪問と模擬国連を中心に書いていきたいと思います。

高校・中学校訪問…私は海外の学校を訪問するのは初めてだったので、今回の訪問でアメリカの学生が実際にどのような生活をしているのかということを感じられたのは大変貴重な体験になりました。

高校では、金属探知器があり、日本との違いを改めて実感しました。また、授業の様子を見ると、日本の学校よりも生徒が積極的で、生徒が授業を作っているという感じがしました。日本の学校は先生主導で、生徒個人の意見を伝え合うような時間が少ないので、生徒が実際に考えて授業を作り上げていく姿勢を取り入れていくべきだと思いました。

中学校では、折り紙のカエルが好評だったのよかったです。安全に気をつけるのはもちろん、生徒一人ひとりの個性を伸ばす点に重点が置かれていたように思います。

アメリカの学校と日本の学校の大きな差は生徒のエネルギーだと強く感じました。

模擬国連…前橋高校は G A 2 担当でした。G A 2 は 300 を超える生徒が集まり、大規模な会議でした。まず私が直面したことは、英語がよく聞き取れなかったことです。そのため、議事進行も有耶無耶になってしまい、後悔することとなりました。模擬国連のような会議では、知識よりも英語力が大前提にあるのだと痛感しました。これからは、そのようなスピードに対応できるような英語力をつけていきたいと思います。

また、会議の人数が多いのでその中で存在感を示す難しさも感じました。多くの生徒の中でどのように自国の個性をアピールするか、どのようにして発言権を得るかという技術は、日本

ではあまり重要視されていませんが、それがいかに大事なことであるかということを実感しました。異なった考え方を持った多くの人々と交渉していく中で、自分の考えをどのように伝えていくかということについて、考えを深めていきたいと思います。

しかし、コーラスで仲間を探したり、スピーチで他国の意見を聴いたりすることは、自分にとって大きな経験になったと思います。世界から集まった人々と一緒に会議をするという機会が滅多にない中で、模擬国連のような大きな大会に参加できたことを光栄に思います。この経験をスタート地点にして、またバネにして、英語力を伸ばしていくのはもちろん、様々な環境にある人々と共に一つの目標に向かっていくための交渉力、主張力につけていきたいです。

最後に、このようなすばらしい機会を与えてくださった先生方、メリルリンチ様に感謝申上げます。準備段階から色々とお世話になり、本当にありがとうございました。この経験を踏みしめて、しっかりと自分の糧にしていきたいと思います。



歓迎夕食会

## Global Classrooms

## 岡田 純一

群馬県立前橋高等学校 3 年

今回模擬国連に参加したのは偶然だった。引率教員の 1 人となった大隅先生にある日呼び出されて、「模擬国連というイベントがあるんだけれど、やってみないか?」と言われたのが全ての始まりだった。正直、模擬国連という言葉を聞いたのもその時が初めてで存在自体も知らなかったが、聞けば世界中の高校生が国連本部に集まり会議をすると言う。一国の代表になるチャンスなんて二度と無いと思い、親に相談もせずにその場で参加を決めてしまった。

とは言え、模擬国連に関する基礎知識が全くなかった上に、言い訳をするわけではないが、正式に参加決定して以降、個人的にタイトなスケジュール続きで、出発日の二日前には部長を務める部活の高校生活最後の公式戦まであったので事前準備がものすごく大変だった。4 月に東京で行われた勉強会の時、今回スウェーデン代表としてチームを組んだ皆と初めて顔合わせをし、皆のレヴェルの高さに驚き、先生方や大学生の皆さんに色々ご指導いただき目が覚めたおかげで、模擬国連についての具体像を初めて掴めた気がする。それで改めて「これはとんでもないことを引き受けてしまった」と焦り始め、同じ前橋高校から参加したパートナーの中澤君共々ポジションペーパー作りに格闘することになるが、中澤君は本当に有能なパートナーで模擬国連本番でも何度も助けられた。この場を借りて感謝したい。

さて、いよいよ NY に乗り込んだが、早速その日の夜から色々な行事に忙殺された。実は以前 NY 郊外のロングアイランドに住んでいたので、旧友知人を訪ねる時間があればいいな、なんて事もチラと考えていたのだが、大甘に甘かった。関係諸方面との食事会（単なる高校生なのに！）とか、現地の高校訪問、小学校訪問、もちろん勉強会も山ほどで、部活で 10 キロランニングするより精神的にはきつかった。高校訪問では社会科の授業に参加して日米友好に一役買い、小学校訪問では折り紙を折ったり日本のお菓子を持参して食べてもらったりして日本の文化紹介に努めた。ただ、忙しかったものの、これら模擬国連本番を迎える準備期間中にチー

ムがどんどん一体化していくのを肌で感じ、本当に楽しかったし嬉しかったし頼もしかった。ただの寄せ集め団体が、いわば家族へと変化していく過程を目の当たりにし、誇りにさえ思つた。

模擬国連本番に関しては、ただただ夢中だった。言えるのは、英語が喋ればいいというレヴェルの話ではない、と言うことだ。会場内の何百人と違う各国代表の精銳達が、英語を共通語として積極的に発言をし、交渉し、とっさの判断力を武器にしつつ自分の力を最大限に發揮しなければならない。事前の準備もさることながら、地道なあととあらゆる勉強が大切だとうことが身にしました。

今回、名誉なことに私達が模擬国連日本代表のパイオニアとして参加することが出来た。大変光栄に思う。今回の経験を糧とし、これからも様々なことに頑張りたい。

最後になりましたが、今回の模擬国連日本代表に関わって下さった先生方、大学生の皆さん、メリルリンチ社のサポートに心より感謝申し上げます。一生忘れられない一週間をどうも有難うございました。



中学校訪問

## Global Classrooms

**更家 杏奈**

渋谷教育学園渋谷高等学校 2 年

今回、日本初参加となった全米模擬国連に参加することができ、本当に嬉しく思います。

はじめて模擬国連の話を聞いた時、とても驚きました。まさか、私の学校でこのようなチャンスに巡り会えるとは思ってもいませんでした。即応募しました。

ニューヨークへの出発までは不安と緊張でいっぱいでした。渋渋では模擬国連という授業やクラブがないため、本当に未知の世界に入っていく感じでした。どこからリサーチを始めたらいいのか分からず、ただ時間が過ぎて行く日々が続きました。でも、夏目先生、竹林先生、Mr.James からのご指導を頂いたり、菅野さんや新保さんとのメールのやり取りにより、少しずつ不安が解消されていきました。分からぬことがあったらメールで質問し、すぐに返信を頂くことができました。Position Paper や Draft Resolution もアドバイス等頂き、初めての模擬国連の会議の準備に非常に助かりました。先生方、先輩達の支えがなくして成し遂げることができなかつたと思います。

不思議なように、ニューヨークに着いたら日本でかかえていた不安や緊張感がやわらいでいく気がしました。高校訪問や食事会を通して少しずつ緊張感に変わって、意欲が湧いてきました。日本代表として、自分ができる限り頑張るしかないといました。Brooklyn の高校はとても楽しかったです。今もそこで友達になった数人とメールのやり取りをしています。私はアメリカの南部に位置するジョージア州に住んでいたのですが、同じアメリカの高校でも全く違う環境でびっくりしました。特に、Metal Detectors が設置されているのには、驚きました。

初日の夕食会もたいへん印象に残っています。世界中からの高校生と話すことができ、本当に楽しかったです。どのような国際的な場に立つのは初めてでした。スペイン、ブラジル、中国、インド、などたくさんの国からの人々と交流できる機会はめったにないことだと思いました。

いろいろな文化や考えに触れることができ、自分自身、柔軟でありたいと思いました。同時にこの経験は、これから私の人生に活かせるように頑張ります。

実際の会議は、想像に反して楽しかったです。早めに主導権を握ることができたので、結構スムーズに進みました。Unmoderated caucus の時間も同じことを主張してくる国と交渉したり、サポートを集めたりなど、積極的に会議を動かしていくのが大変でしたが、楽しかったです。将来、大学でも模擬国連を続けたいと思いました。そして、後輩たちや一般の人にも模擬国連というものをもっともっと知ってほしいと思いました。

最後になりましたが、このような貴重な経験をサポートして下さった皆様に心より感謝申しあげます。



開会式

## Global Classrooms

**高橋 祥子**

渋谷教育学園渋谷高等学校 2 年

今回模擬国連に参加して、国連に対する理解がより深まったこともさることながら、人と人とのつながりやコミュニケーションというものについて考えさせられました。たまたま会議で隣になったスイスの大使の2人とも仲良くなり、会議の外でも話をし、ダンスパーティーでも一緒にいたりというほどにまでなってそれをとても強く感じました。外交という場は国と国の政策や思惑がぶつかり合う場です。しかしそれを実際に行うのは「人」であり、そのやりとりの裏には人と人の間の関係というものが大事なのではないかと思いました。人柄の良さというのもこのような場では関係してくるのではないかというふうに思いました。

Brooklyn の高校訪問には衝撃を受けました。入り口にあった金属探知機を見た時アメリカの怖さというものを実感させられたように思います。また校内には警備員の身なりをした方が多数いて、授業に行くようと怒鳴っていた光景もまた、日本ではまず見られないものだと思います。日本の大使として会議に参加する生徒に学校を案内してもらうというのもとても楽しかったです。少しの時間だったのあまり深い話ができなかったのは残念ですが、授業の邪魔をしてクラスからの質問を受けたり、面白い先生と話す機会があったりしたのでとてもよかったです。この高校訪問は、自分が通っていた学校ともまったく異なり、もちろん日本の学校とも異なっていたため、一つ違う世界を見せられたような気がします。

今まで日本で2ヶ月弱の間模擬国連に向けて準備を進めてきて、それをすべて会議の行われる2日間で発揮するというのはとても難しかったです。資料として提示したいものはまだまだたくさんあり、また2つの議題が与えられていたにも関わらず1つを終わらせるのがやっとであったというのは少し残念にも感じました。ですが、この模擬国連を通じて学んだことは計り知れません。実際に決議案の作成に参加したり、コーラスを通じて他国大使にアプローチし交渉したりといった作業一つ一つが自分のためになつたような気がします。自国のスタンスをはつ

きりと皆に知らせ、それを踏まえた上の交渉ということの難しさは今回の模擬国連でよくわかったことの一つです。これはとても難しいことでした。またもう一つ学んだのは相手がどんな人であっても積極的に他国とコンタクトを取り、リーダーシップを取ろうとする必要だということです。

このように将来必ず活かせるようなスキルが見につく場が模擬国連であるということを強く感じました。ただ教科書を読んで覚えるといった学習なのではなく、実際に自分の能力を試すことができたり、同年代の他の大使から実際に学ぶところが多々あったりと、自分が成長するいい機会でした。事前準備もとても興味深く楽しく行えたので、是非日本でもこの活動が広まってほしいと思います。



国際連合本部

## Global Classrooms

## 支援協力団体一覧

本派遣事業の実施にあたり多くの団体からご支援とご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げますとともに、謹んでご芳名を掲載させていただきます。

(以下五十音順、敬称略)

## 後援

外務省

国連広報センター

日本国際連合協会

## 協力

スウェーデン大使館

## 協賛

メリルリンチ日本証券

## 会計報告

本派遣事業は、グローバル・クラスルームのグローバル・スポンサーであるメリルリンチの助成金により賄われました。ご支援いただき心より感謝申し上げます。

## 収入

メリルリンチ日本証券 寄付	3,410,000
合計	3,410,000

## 支出

印刷製本費	100,000
会議費	400,000
会議関連費	190,000
渡航費	1,580,000
宿泊費	1,140,000
合計	3,410,000

2007年6月20日  
会計 新保 孝尚

## Global Classrooms



Global Sponsor

グローバル・クラスルーム  
日本委員会

(以下順不同、敬称略)

## アドバイザリー・グループ

明石 康

(スリランカ平和構築・復旧・復興担当日本政府代表  
／元国連事務次長／日本国際連合協会副会長)

星野 俊也

(模擬国連委員会創設者・OB／国連日本政府代表部  
公使参事官)

小林 いずみ

(メリルリンチ日本証券代表取締役社長／経済同友会  
副代表幹事教育問題委員会委員長)

## 事務局

中満 泉

(模擬国連委員会 OG／一橋大学教授)

紀谷 昌彦

(模擬国連委員会 OB／外務省国際平和協力室長)

ジェイソン・ケンディ

(メリルリンチ日本証券広報部長)

野田 司

(メリルリンチ日本証券広報部ヴァイス プレジデント)

新保 孝尚

(元模擬国連委員会委員長／国際基督教大学)

菅野 雅聰

(2007年度模擬国連委員会研究主任／一橋大学)

## 事務局連絡先

E-mail: globalclassrooms@jmun.org

## おわりに

今回日本から NY での模擬国連会議に参加した 12 名の若い大使たちは、実に多くのことを学んできました。

それぞれが取り組んだ課題に関する知識はもとより、地球規模の課題に国際社会が協同して取り組むことの意義や、その困難さ、交渉のためのスキル、そして問題解決を模索する中で生まれる、国境を越えたチームワークなど。国連は安易な理想主義の場ではなく、常に厳しい現実の制約のなかで、いかに国際社会の共通の利益を見つけ出し促進するかを考えるところでもあります。

グローバル化がますます進む今日、日本からも国際社会でリーダーシップを取って地球規模課題に取り組む人材を数多く出す必要があります。意欲ある高校生たちに模擬国連会議を体験させることは、そのような人材育成のための重要な投資であると、グローバル・クラスルーム日本委員会は考えています。

今後日本委員会では、NY への派遣事業に加えて、国内での高校生模擬国連会議の開催も計画しています。多くの皆様にぜひ支援を賜りたく、お願い申し上げます。

グローバル・クラスルーム日本委員会  
Japan Committee for Global Classrooms

## 参考

### 関連リンク

米国国連協会／UNA-USA  
<http://www.unausa.org/>

グローバル・クラスルーム／Global Classrooms  
<http://globalclassrooms.unausa.org/>

全米高校模擬国連大会／  
UNA-USA Model UN Conference  
<http://unausamun.unausa.org/>

模擬国連委員会／Japan Model UN Society  
<http://www.jmun.org/>

グローバル・クラスルーム日本委員会／  
Japan Committee for Global Classrooms  
<http://www.jmun.org/globalclassrooms/>

メリルリンチ日本証券／  
Merrill Lynch Japan Securities  
<http://www.japan.ml.com/>

### 関連報道

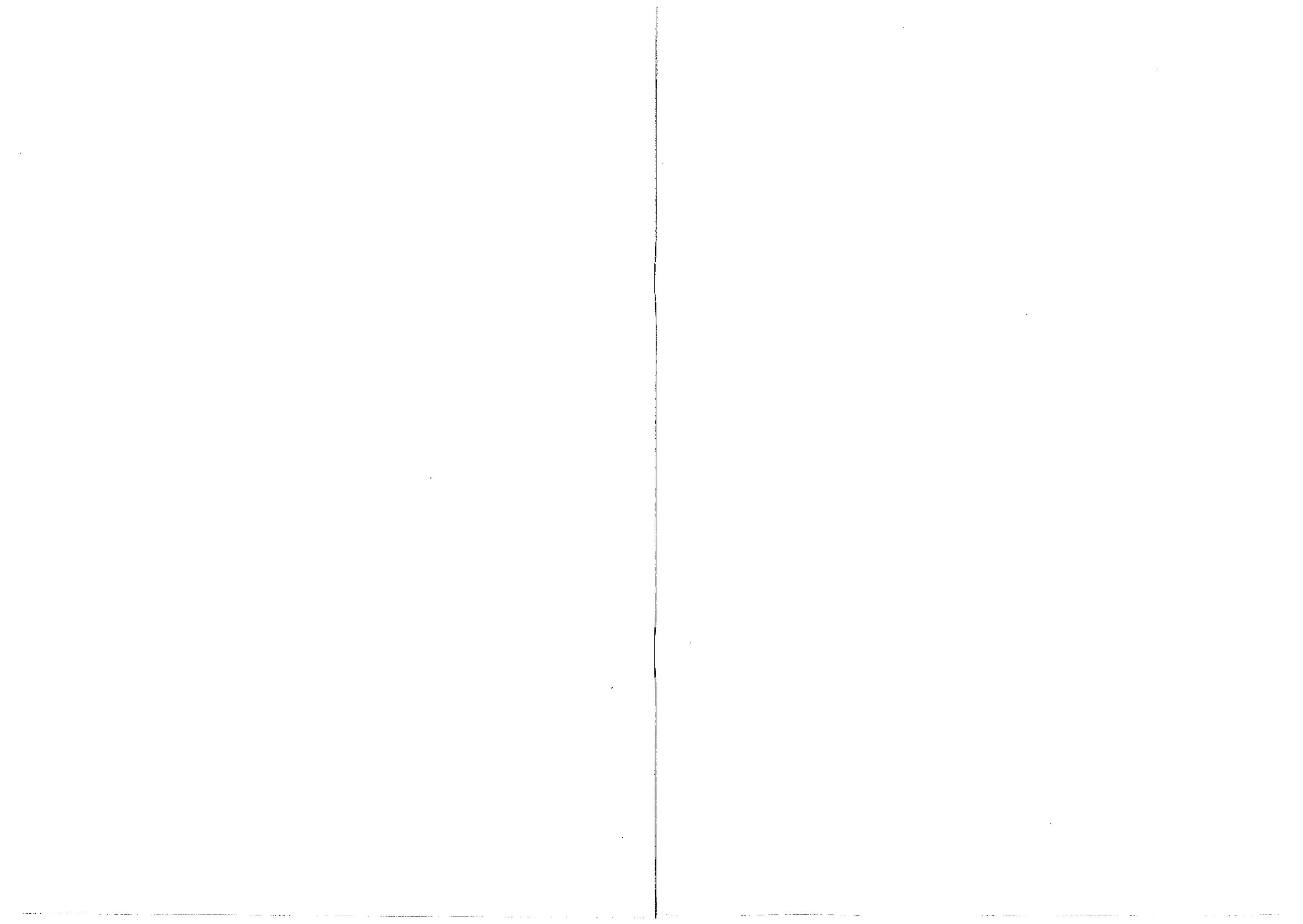
琉球新報  
「向陽高生2人 外交デビュー」  
5/11 夕刊

上毛新聞  
「“大使”に岡田君、中沢君（前橋高）」  
5/13 朝刊

沖縄タイムス  
「世界の課題 国連で討議」  
5/15 朝刊

N H K  
「模擬国連 高校生が世界に挑戦」  
5/20 13:00 ニュース  
5/23 首都圏ネットワーク

朝日新聞  
「模擬国連大会に日本が初参加 高校生12人」  
5/21 朝刊





グローバル・クラスルーム日本委員会  
Japan Committee for Global Classrooms

